



みみ

耳よい

いいメール

国立病院機構 相模原病院 広報誌

令和7年9月19日号

発行：国立病院機構 相模原病院

発行責任者：安達 献

住所：相模原市南区桜台18-1

電話：042-742-8311（代表）

FAX：042-742-5314

第94号



相模原病院 旧看護学校横 イチョウ並木（2024年）

第94号 目次

- ◆前立腺肥大症に対する最新低侵襲治療のご紹介・・・1
- ◆連載コラムQ&A
リウマチ科・・・2
薬剤部・・・4
放射線科・・・5
臨床検査科・・・6
- ◆コーヒープレイク
【あんぱんの、やさしさを。
病院の手づくり米粉パンから】・・・7
- ◆トピックス !!
がん相談支援センターオープンしました・・・8
- ◆ナースのチカラVOL. 2
がん患者さんに寄り添う看護師・・・9

- ◆トピックス !!
リウマチ患者さんの訪問診療に
取り組んでいます!!・・・10

連載 近隣保険薬局紹介コーナー

「大岡薬局」様・・・11

連載 近隣協力医療施設の紹介コーナー

「愛心ケアクリニック」様・・・12



「さがみサクラネット」

インターネットを利用して、患者さんの多岐にわたる沢山の診療情報を地域の医療機関で共有し、地域で完結できる良質な医療の提供を目的としたシステムです。

前立腺肥大症に対する最新低侵襲治療のご紹介 経尿道的水蒸気治療 あなたは「おしっこ」でお困りではないですか？

泌尿器科 部長 平山 貴博

前立腺は膀胱のすぐ下、尿道を包み込むように存在する臓器で、加齢とともに肥大していくという臨床的特徴を有しています。超高齢化社会を背景に、日常診療において前立腺肥大症は泌尿器科領域における“Common disease”として広く知られております。前立腺肥大症が引き起こす頻尿や残尿感、夜間頻尿などの症状は生活の質（QOL）に大きく影響するため、排尿障害でお悩みの壮年期男性は多くいらっしゃいます。

前立腺肥大症は進行するとスムーズな排尿の妨げになり、膀胱内に残尿を生じるようになります。長期に及ぶ残尿過多の状態は腎臓へ悪い影響を及ぼし、腎機能の低下や尿路を介した細菌感染症、膀胱結石などを引き起こすこともあり、治療のタイミングを逸してしまうと神経因性膀胱として不可逆的な病態となり腎後性腎不全に伴う透析導入の原因となることさえ起り得ます。

一般的には内服薬や生活習慣の改善などで治療が開始されることが多いですが、保存的治療で症状の改善が得られない場合、手術療法が現実的な治療選択肢となります。手術療法は非常に効果的な治療手段です。

しかしながら、独居などの生活環境や年齢、既往症などによる身体的負担への懸念から本来なら手術療法の適応であることを理解されなが

ら一歩が踏み出せない患者様もおられます。

当院では、そのような患者様においても安全に施行可能な、お身体に負担が掛からない手術療法である経尿道的水蒸気治療を導入いたしました。

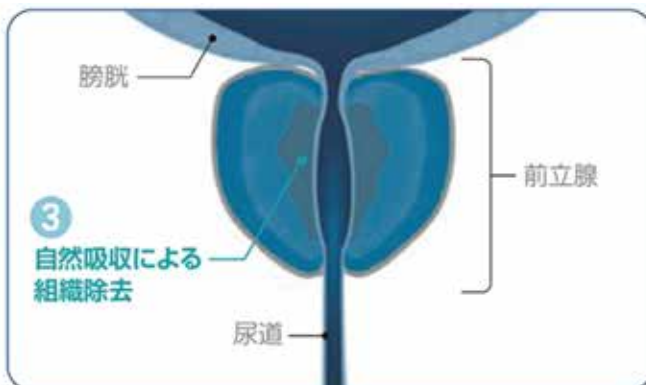
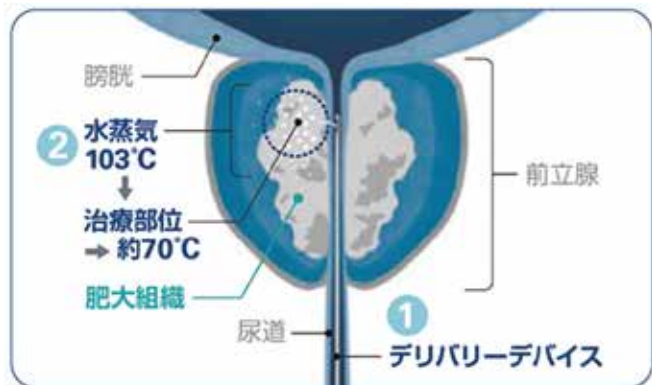
水蒸気を用いて経尿道的に前立腺肥大症を加療する本療法では、今までの外科治療では身体的負担への懸念から手術療法を忌諱されていた患者様に対しても安心して治療することができます。

専用の治療機器（デリバリーデバイス）を尿道から肥大した前立腺に到達させ、水蒸気を前立腺内部に注入して肥大した組織を壊死させます。治療は10分程度で終了し、お身体への負担はほとんどありません。入院期間もより短期間で済みますので、ご自宅を長期に不在とする心配もありません。

心臓や呼吸機能が悪くても施行可能です。認知機能に不安がある場合でも対応できます。

もし手術のことを聞いてみたい、泌尿器科を受診したいという場合には、是非当院泌尿器科にお声掛けください。掛かりつけの先生からの診療情報提供書をお持ちであれば、予約センターで予約を取得することもできます。

最新の低侵襲治療である経尿道的水蒸気治療が、前立腺肥大症の諸症状でお困りでの患者様への新たな治療手段となれば幸いです。



ボストンサイエンティフィックHPより

連載コラムQ&A <気になる疑問にお答えします>

■リウマチ科 —リウマチ性多発筋痛症疑い患者さんの入院精査を行っています—

部長 津野 宏隆

リウマチ性多発筋痛症とは？

リウマチ性多発筋痛症（Polymyalgia Rheumatica：PMR）は、頸部、肩、腰部、大腿など四肢近位部の痛みやこわばりが生じる原因不明の炎症性の疾患です。平均発症年齢は70-75歳とご高齢の方に多い疾患で、「痛みのために寝返りをうてない」、「肩や腕があがらなくなった」などの症状が急に現れることが多く、発症日を覚えておられる患者さんも少なくありません。治療の第1選択薬は副腎皮質ステロイドで、治療への反応性が良好であるのも特徴です。

リウマチ性多発筋痛症の診断

ヨーロッパリウマチ学会/米国リウマチ学会によるリウマチ性多発筋痛症の分類基準によると、① 50歳以上 ② 両肩の痛み ③ 採血での炎症反応の上昇、の3つを満たすことが必須条件で、さらに45分以上持続する朝のこわばり、臀部痛または股関節の可動域制限、肩関節と股関節以外に関節症状がないといった臨床症状、検査所見（リウマトイド因子、抗CCP抗体が陰性）、関節エコー所見（肩峰下滑液包炎、三角筋下滑液包炎、転子滑液包炎を検出）などから診断します。しかし、上記のいずれの症状・検査所見もリウマチ性多発筋痛症に特異的なものではないため、同様の症状・検査所見を呈する可能性のある他の疾患（例：感染症、悪性腫瘍、他のリウマチ性疾患など）の除外を丁寧に行うことが正確な診断をするためにとても重要となります。診断の過程において患者さんにはいくつかの検査を受けていただく必要があり、強い痛み症状のあるご高齢の方には複数回の外来受診が大きな負担になるケースが多々あります。

正確な診断と患者さんの負担軽減のために

このような事情を踏まえ、相模原病院リウマチ科では、リウマチ性多発筋痛症が疑われる患者さんに対して、1～2週間程度の入院による精査および治療導入を行っております。具体的には、各種培養検査、画像検査（CT、エコー）、上部および下部消化管内視鏡などで前述の除外すべき疾患の有無を確認していきます。精査を進める中で、ステロイド治療の開始が妥当であると判断できた症例については、入院中に治療も開始できますので、多くの患者さんが入院前よりも症状がかなり軽減できた状態で退院されています。

地域の先生方との連携強化を目指します

登録医の先生方におかれましては、あちこちの体の痛み、炎症反応の上昇がみられるご高齢の患者さんがおられましたら、どうぞ当科へご紹介ください。患者さん・ご家族のご希望になるべく添えるような精査方針をご提案いたします。診断が確定し、治療が奏功した場合には、ステロイドを徐々に減らしていき、ごく少量で維持できる患者さんも多くみられます。このような安定した患者さんについて逆紹介させていただき、また再燃などが疑わしい際にはいつでも当科へ再紹介いただく、といった連携をお願いできれば大変幸甚に存じます。

今後も、より良い医療の提供を目指し、地域の先生方と共に歩んで参りたいと考えております。引き続きのご支援、ご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆次のページはQ&Aです！

Q&A

Q1. リウマチ性多発筋痛症と診断された場合、どのくらいでよくなりますか？

A1. 治療薬のステロイドが効きやすいことがこの疾患の特徴です。治療開始後、早い場合は数日で症状が軽くなり、楽になることが実感できます。

治療薬には副作用がありますので、症状がぶり返さない程度のスピードで量を徐々に減らしていきます。標準的な減らし方では1年程度で終了できる計算となりますが、実際は30～50%程度の患者さんで症状がぶり返すといわれており、実際は数年かけて治療薬の終了を目指す、もしくは、ごく少量のステロイドを継続することで症状がほぼ無い状態（寛解）を目指します。

Q2. リウマチ性多発筋痛症は30代でも発症する可能性はありますか？

A2. ありません。50歳未満で同様の症状が出ている場合は、他の疾患を考える必要があります。

Q3. リウマチ性多発筋痛症の原因は何ですか？

A3. 正確な原因はまだ解明されていませんが、自己免疫異常や遺伝的要因、加齢に伴う免疫機能の変化、感染症など様々な要因があると言われています。

Q4. リウマチ性多発筋痛症と診断を受けた場合、日常生活で気を付けることはありますか？

A4. 治療薬であるステロイドによって免疫力が低下するため、手洗いやうがい、予防接種など日常的な感染対策を心がけましょう。症状が改善しても自己判断でステロイドを減量、中止しないでください。治療薬の副作用である骨粗しょう症予防のため、バランスの良い食事と適度な運動・日光浴を心がけてください。



連載コラムQ&A <気になる疑問にお答えします>

■薬剤部 —おくすりあれこれ—

森 達也

Q：おくすりいつ飲むの？

A：くすりが持つ効果を安全に、そして最大限に引き出すためには、正しいのみ方で飲むことが重要になります。のみぐすりの場合、食前、食後、食間、のように、飲むタイミングは食事と関係していることがほとんどです。これは、胃の内容物によってくすりの吸収が変わったり、空腹時にのむと胃に負担をかけてしまうくすりがあるためです。くすりを飲むタイミングについて、具体的にお話しします。

- ▶食後・・・食事の後、30分以内に服用します。
空腹時にのむと胃に負担をかけてしまうくすりや胃の内容物があることでくすりの吸収が上がるくすりはこのタイミングで服用します。
- ▶食前・・・食事の前、30分以内に服用します。
食前に飲むことで高い効果を発揮するくすりや胃の内容物があると吸収が下がるくすりはこのタイミングで服用します。
- ▶食間・・・食事と食事の間、食後2時間程度の空腹時のことで、食事の最中ではありません。
胃の内容物がおくすりの吸収に大きくかわるくすりはこのタイミングで服用します。
- ▶とんぷく・・・食後や食前など決まった時間ではなく、発作時や発熱時、症状のひどいときなどに服用します。
- ▶その他には、起床時、食直前、食直後、寝る前、〇〇時間おきに、などなどのタイミングがあります。

おくすりを飲むタイミングと食事の関係で重要な点がもう1つあります。それは飲み忘れを防ぐということです。いくら効果のあるくすりでも飲み忘れてしまっただけではまったく効果がありませんし、飲み忘れることで症状がさらにひどくなることもあります。飲み忘れを防ぐために1日3回の食事と関連させているのです。実は、おくすりの効果や安全性と食事の影響についてあまり関連のないくすりも多くあります。言い換えれば、必ずしも何か食べなくとも服用できるくすりも多くあります。自分の生活サイクルで忘れないタイミングがあれば、その時に服用する方が良い場合もあります。

くすりが持つ効果を安全に、そして最大限に引き出すためにくすりによって飲み方が異なっています。くすりを使用するときには医師、歯科医師、薬剤師の説明をしっかりと聞いておきましょう。



連載コラムQ&A <気になる疑問にお答えします>

■放射線科

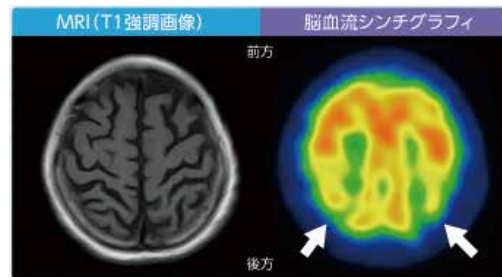
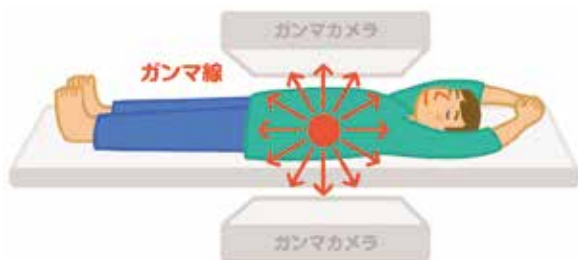
RI室 診療放射線技師 畠山 慎

Q：RI検査とはどんな検査ですか？

A：RIとは、Radio Isotope(ラジオアイソトープ)の略で、日本語では放射性同位元素といいます。RI検査は、放射性同位元素がガンマ線を放出する特性を利用した検査で、核医学検査やアイソトープ検査とも呼ばれます。

RI検査を受ける患者様には、検査前に放射性医薬品というRIを含むお薬を注射します。放射性医薬品には様々な種類がありますが、検査目的に応じた特定の臓器や組織に取り込まれます。そこから放出される微少なガンマ線を体の外から感知する検出器（ガンマカメラ）で画像化することにより、体内臓器や組織の状態を調べることができます。

CT検査やMRI検査は、主に臓器の形態の異常を調べるのに対し、RI検査は投与された放射性医薬品の分布や集積量から、機能や代謝状態などを評価することができます。機能や代謝の異常は形態の変化よりも前に発現することが多いため、RI検査によって病変の早期発見につながる可能性があります。



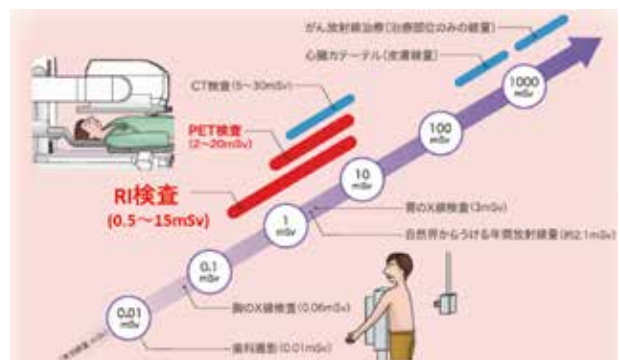
左のMRIでは異常はみられませんが、右の脳血流シンチグラフィでは頭頂葉において血流が低下していることがわかります。(白矢印)

Q：放射性物質を注射されるのが心配なのですが、副作用など大丈夫でしょうか？

A：ご心配ありません。放射性医薬品は医薬品としての副作用などの安全性のほか、RIを用いることによる放射線被ばくの面からも安全面に配慮した設計となっています。

放射線は常に自然界に存在しているもので、私たちは宇宙や大地、食べ物や飲み物から微量な放射線を浴びながら日常生活をしています。

放射線を受けたときの人体への影響をあらわす単位をシーベルト(Sv)と言います。「宇宙線」「大地」「食べ物」などから受ける放射線をすべて合算したものを自然放射線と言い、日本では1年間で約2.1mSvになります。RI検査1回あたりの被ばく線量は0.5～15mSv程度で、X線検査やCT検査で受ける被ばく線量と同程度と考えられます。通常、身体に影響を持たない量としていますので、安心して検査をお受けください。



臨床検査科 検体検査主任 手塚 好之

Q：血液検査の血算とはどんな検査？

A：血算とは全血球計算を省略した用語です。血液中の細胞成分である白血球（WBC）、赤血球（RBC）および血小板（PLT）の数や大きさ、さらにヘモグロビン濃度（Hb）、ヘマトクリット値（Ht）など自動血球分析装置を用いて測定しています。

白血球は異物の進入に対抗して体を守る働きをしています。白血球には好中球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球などの種類があります。白血球数の増減を知ること、体の状態を把握し病気の推定に役立ちます。

赤血球は体のさまざまな細胞へ酸素を運び、二酸化炭素を受け取って肺まで運び出す働きをしています。この中心的役割を担っているのがヘモグロビンです。ヘマトクリット値は、血液に含まれる赤血球の割合を%で表します。これらが低ければ血液が薄いということを意味しており貧血が疑われます。

貧血の指標であるヘモグロビン濃度は成人男性では13.7～16.8g/dL、女性では11.6～14.82g/dLが貧血の基準となっております。検査詳細情報の基準値欄にも記載されておりますので、ご参照ください。

自動分析装置（血算）



検査詳細情報

《検査詳細情報》

1/1ページ

受診日:	10/20/2023	検査日時:	10/20/2023
診療科:	内科	レポート:	10/20/2023
検査項目:	血液検査	検査所:	検査所
性別:	男性	検査結果:	検査結果
フリーコメント: 検査結果			

No.	検査項目	測定値	基準値	単位	単位
1	総蛋白	7.05	6.5 ~ 8.5	g/dl	
2	アルブミン	4.5	3.5 ~ 5.5	g/dl	
3	総ビリルビン	0.2	0.0 ~ 1.2	mg/dl	
4	AST	15	0 ~ 40	U/L	
5	ALT	25	0 ~ 40	U/L	
6	ALP	120	40 ~ 130	U/L	
7	γ-GTP	30	0 ~ 50	U/L	
8	LDH	220	100 ~ 250	U/L	
9	尿酸	4.5	2.5 ~ 7.5	mg/dl	
10	血糖	100	70 ~ 100	mg/dl	
11	血中鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
12	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
13	総鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
14	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
15	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
16	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
17	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
18	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
19	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
20	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
21	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
22	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
23	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
24	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
25	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
26	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
27	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
28	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
29	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
30	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
31	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
32	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
33	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
34	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
35	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
36	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
37	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
38	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
39	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
40	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
41	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
42	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
43	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
44	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
45	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
46	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
47	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
48	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	
49	血清鉄	250	150 ~ 350	μg/dl	
50	血清鉄結合能力	300	250 ~ 350	μg/dl	

13	CBC				
14	WBC	5.16	3.3 ~	8.6	$\times 10^3/\mu\text{ l}$
15	RBC	5.11	4.35 ~	5.55	$\times 10^6/\mu\text{ l}$
16	Hb	16.1	13.7 ~	16.8	g/dl
17	Ht	48.3	40.7 ~	50.1	%
18	MCV	94.5	83.6 ~	98.2	fl
19	MCH	31.5	27.5 ~	33.2	pg
20	MCHC	33.3	31.7 ~	35.3	%
21	PLT	201	158 ~	348	$\times 10^3/\mu\text{ l}$

コーヒーブレイク



【あんぱんの、やさしさを。病院の手づくり米粉パンから】

管理栄養士 藤田 かほる

管理栄養士の藤田です。

4月から始まった朝ドラ「あんぱん」、ご覧になっていますか？

前期の「おむすび」に続いて、今期は「あんぱん」。

まさかの“連続・食べ物タイトル”に、ついにハマりしてしまいました。

食べ物には、人の心を動かす力がありますよね。

今回の主人公・のぶちゃんに、家族との大切な別れが訪れるという、切ない場面がありました。

そんな悲しみの中、そっと手渡されたのが、ヤムおんちゃん特製のあんぱん。

「美味しいね」

そう言って涙を流しながらあんぱんを口に運ぶ姿に、私の心もふっとほだけました。

食べることは、身体だけでなく、心を支える行為なんだと、改めて感じた瞬間です。

そして、そんな温かい場面を見るたびに、私は職場の光景を思い出します。

当院には、小麦や卵などにアレルギーをもつ子どもたちがたくさんいます。

市販のパンが使えないため、登場するのが、うちの調理師さんたちが手づくりする米粉のパンです。

一つひとつ丁寧に、まるで大切な誰かのために焼くように、心を込めて作られています。

ふわっとして、ほんのり甘くて、いいにおい。でもアレルギーは不使用。

試作を重ね、「おいしい」と言ってもらえるパンを追求するその姿は、まさに“ヤムおんちゃん”そのもの。

厨房のオーブンの前で焼き上がりを見守る背中には、ドラマと同じ優しさが宿っています。

「食べることは、生きる力だ」

ドラマで語られたこの言葉が、病院の現場でもまさに生きています。

入院中の子どもが、ごはんをぱくっと食べる姿。

それを見てホッとするとご家族の表情。

そんなときこそ、私たち管理栄養士の出番です。



アレルギーや栄養の話を、できるだけわかりやすく。食べられる食材、調理のコツ、代替食品の紹介まで。

生活の中に自然に溶け込むような「栄養相談」を、丁寧に、親身に行っています。

私たちの仕事は華やかではありません。

むしろ“忍び”のように、静かに、でも確かに、食事の陰で支える存在です。

それでも誰かが一口食べて「美味しい」と笑った瞬間、そのそばにいられることが、私たちにとって何よりの報酬です。『たまるかー。』となります。

だからこそ、「たっすいがーは、いかん！」

そんな心意気で、今日も厨房の“ヤムおんちゃん”たちは米粉パンを焼いています。

ドラマの中の“あんぱん”のように、私たちの作る食事、ただの栄養ではなく、心を包み込むやさしさでありたい。

病気の子どもたちやご家族の、小さな希望になれるように。

「また食べたい」「これなら食べられる」

そんな声に背中を押されて、私たちもまた、静かに、でも力強く、食の現場を支えていきます。

では、また。

ほいたらね。

～*～「食」は 人を良くする

「食事」は 人を良くする事～*～



手作り米粉パン（相模原病院シンボル焼き印付き）

トピックス!!

がん相談支援センターをオープンしました ～がんに関するあなたの不安にそっと寄り添う窓口です～

医療相談室長 麻酔科部長 緩和ケアセンター長 仁木 有理子

「がん相談支援センター」は全国の「がん診療連携拠点病院」などに設置されている相談窓口です。当院も以前よりありましたが、独立した場所はありませんでした。

わが国でも第4期がん対策推進基本計画がスタートしていますが、診断時から緩和ケアが提供されること、がん相談についてもより詳細にきめ細やかな対応が明記されています。

そのような中、より充実した情報提供や相談窓口機能を果たすためにがん相談支援センターの部屋を開設しました。

当センターでは病気をきっかけに生じる生活上のさまざまな問題や不安に対してソーシャルワーカー、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床心理士など多職種が連携を取り、問題解決のお手伝いをさせていただきます。当院通院中の方やその身近な方はもちろん当院に通院していない方でも相談は可能です。

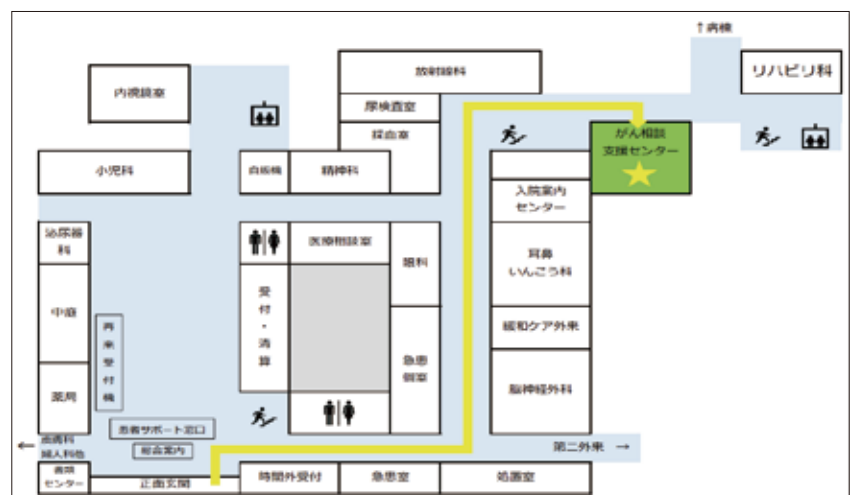
相談は無料です。(相談内容によりその先の相談については費用が発生する場合があります) 支援センター窓口にてまずはお話を伺い、必要に応じて専門職種におつなぎいたしますが、専門職種の対応については当日中の対応が難しい場合もある旨ご承知おきください。

また、あふれる情報の中で正確な情報を得ることはとても重要です。センターではがんに関わるパンフレットや展示などで、できる限り正確な情報に接していただけるよう努めていきたいとも考えております。ご相談がなくともぜひ一度立ち寄ってみていただければ幸いです。

今年度より地域連携室が患者・地域支援センターと改称、組織改編を行い、より患者さまのお困りごとに即した丁寧な対応ができればと考えております。がん相談支援センターは患者・地域支援センターとして一部ほかの病気の方にも立ち寄っていただけるような場所、相談事の対応窓口としての機能も果たせればと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

たとえばこんな時

- ・病気のことが心配、誰に相談したらいいかわからない
- ・がん治療中の食事や薬について知りたい
- ・治療による副作用が心配
- ・医療費の支払いが大変、福祉の各種制度について知りたい
- ・仕事のことが心配
(ハローワークや社労士とも提携しています)
- ・療養生活や生活の場所について相談したい



案内地図

がん患者さんに寄り添う看護師

がん関連 認定看護師の紹介

当院には、がん看護を専門とする認定看護師が在籍しています。(がん放射線療法看護1名、がん化学療法看護2名、緩和ケア1名)。診察時には主治医の説明に同席し、患者さんにご家族が納得して治療を選択できるよう支援していきます。

また治療や生活に関する不安や疑問などを気軽に相談できる「がん看護外来」も設けています。受診をご希望の方は、主治医または外来看護師までお気軽にお声がけください。



がん放射線療法看護認定看護師 佐藤 弘美

放射線治療を受ける患者さんが、安全かつ安心して治療を完遂できるよう、専門的な知識と経験を活かして支援しています。



治療に伴う有害事象を最小限に抑えられるため、放射線治療医や診療放射線技師と連携し、患者さん一人ひとりに合ったセルフケアと一緒に考え、日常生活で実践できる方法を提案していきます。治療が長期に及ぶこともある中で、患者さんの生活や価値観を尊重し、気持ちに寄り添う看護を大切にしています。

がん化学療法看護認定看護師

平島 奈奈子

柳原 奈歩

近年、がん薬物療法は新薬の開発が進み、疾患や病期に応じた、



より個別化された治療が行われるようになってきました。

私たちは、患者さんやご家族の不安な気持ちに寄り添いながら、薬物療法中でも、これまで楽しみにしていたことや担ってきた役割を続けられるよう、一緒に考え、支援していきたいと考えています。

緩和ケア認定看護師

中村 浩子

がんと診断されたその時から、患者さんやご家族の身体的・精神的・社会的な苦痛をやわらげ、生活の質（QOL）の維持・向上を目指して支援していきます。



また、患者さんやご家族の価値観を大切にしながら、納得のいく自己決定ができるように支援し、その選択を尊重した看護を行っています。

“自分らしい生活”を続けられるよう、患者さんやご家族の思いに寄り添いながら、病棟スタッフや、さまざまな職種と連携、協力しながらサポートいたします。

トピックス!!

リウマチ患者さんの訪問診療に取り組んでいます!!

臨床研究センターリウマチ性疾患研究部 部長

リウマチ科 松井 利浩

高齢のリウマチ患者さんが増えています!

近年、リウマチ患者さんの高齢化が進んでおり、現在では約3人に1人が75歳以上の後期高齢者です。加齢に伴って専門の医療機関へ通うことが難しくなると、近隣の医療機関に転院したり、介護施設などに入所される方もいらっしゃいますが、「訪問診療」という選択肢もあります。

訪問診療とは?

「訪問診療」とは、病院やクリニックへの通院が困難な方のために、医師が定期的に自宅や施設を訪れて診察や治療を行う医療サービスです。病状の管理やお薬の処方、必要に応じて血液検査や点滴なども受けられ、自宅にしながら継続的な医療を受けることができます。

リウマチ患者さんの訪問診療はハードルが高い?

訪問診療を希望された場合には、地域の訪問診療医の先生に依頼させていただくのが一般的です。しかし、リウマチを専門としていない先生からは、「リウマチ患者さんの診察や専門性の高い薬による管理が難しい」という声も聞かれます。

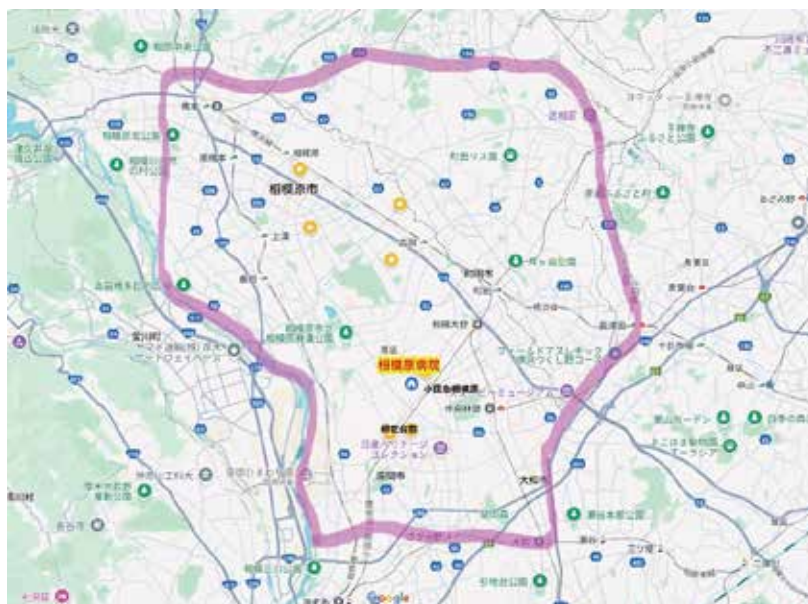
当科の医師が訪問診療を行っています!

そこで、当院リウマチ科では、近隣のクリニックと連携し、当科の医師が直接リウマチ患者さんの訪問診療を行っています。訪問患者さんの体調が悪化した場合には、当科で入院加療も行っています。

また、在宅診療移行後は画像検査などの詳細な検査が難しくなるため、移行前に全身の精査や薬剤調整などを行う「在宅診療導入前精査入院」にも取り組んでいます。

現在、訪問診療を行っている対象エリアは地図に示す通りです。ご相談を希望される方は、当科通院中の方であれば主治医に、それ以外の方々は現主治医を介して当院地域連携室までご相談ください。（詳細は個別に検討が必要ですので、ご希望に添えない場合があることをご了承ください）。

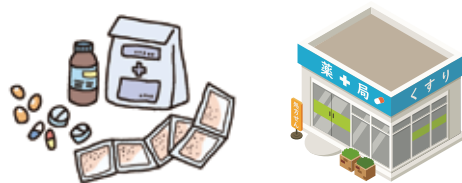
※ご注意：相模原病院自体が訪問診療を行っているわけではありません。あくまでもリウマチ科独自の取り組みですので、予めご理解くださいますようお願い致します。



連載

近隣保険薬局紹介コーナー

大岡薬局 様



戦前は川崎鋼管通りで営業しておりましたが戦火のため、昭和26年より当地でご愛顧いただいております。現在、駅前再開発がありましたが、場所はほぼ変わらずボーノ相模大野北棟1階、りそな銀行さんのお隣で営業しております。相模大野駅から傘なしでも来店いただけます。公益社団法人神奈川県薬剤師会認定の「くすりと健康相談薬局」、厚生労働省基準準拠の「健康サポート薬局」です。県外も含め200以

上の医療機関の処方箋を応需しており、医療用麻薬も含め現在2400品目以上を在庫しております。薬剤師による在宅訪問も積極的に行っております。また、学校薬剤師としての地域活動にも積極的に参加しており、処方調剤だけでなく、漢方薬、薬局製剤、一般医薬品、衛生用品、化粧品、工業薬品を含め、健康増進、疾病予防、在宅医療、介護など、幅広くお気軽にご相談ください。



【大岡薬局】

営業時間

月～金 9:00～19:30

土 9:00～19:00

定休日 日曜祝祭日他

電話：042-742-2807

FAX：042-765-5921

住所：〒252-0303

相模原市南区相模大野

3-2-1-103

連載

近隣協力医療施設の紹介コーナー



愛心ケアクリニック

院長
倉岡 瑛子 先生

はじめまして。愛心ケアクリニック・院長の倉岡瑛子と申します。当クリニックは2017年、相武台団地にあるコンチェラート相武台ビルに在宅支援診療所として開院しました。相模原市南区、座間市を中心に24時間体制で訪問診療を行っており、今年で9年目を迎えます。また、私自身は、2020年から相模原市介護認定審査会の部会長として、これまでおよそ6,000人の審査に携わってきました。

通院が困難な患者様に対して、日常の健康管理から、認知症、がん末期などのターミナルケア、在宅での看取り、精神疾患、重症心不全、パーキンソン病などの神経難病まで幅広く対応しています。在宅酸素療法、胃ろう、中心静脈栄養管理、留置カテーテル交換なども行っています。また、訪問診療に欠かせないケアマネジャー、訪問看護ステーション、訪問薬剤師など他職種の人々と常に連携を取り、地域の社会資源が力を合わせて、いわゆる「生きる」に伴走する医療を提供できるよう努めています。

専門性の高い治療、救急受診、精密検査や入退院の相談など、相模原病院の皆様には誠にお世話になっております。相模原病院のような存在があって初めて、私たちが在宅医療を提供することが出来るのだと、日々痛感しています。

高齢化率がピークを迎える2040年に向け、愛心ケアクリニックの職員一同、地域の一員として、皆様が住み慣れた場所で安心して最期まで過ごし、生活の質（QOL）を重視した「治し支える医療」を実践したいと思っています。

今後とも、相模原病院をはじめ近隣の病院と連携し、地域包括ケアシステムを担う一員として、患者様中心の「地域完結型医療」を通して地域社会に貢献できれば幸いです。今後とも宜しくお願いいたします。



愛心のある医療をお家までお届けします
愛心ケアクリニック

訪問診療ご利用の患者様に、緊急時・急変時に
365日×24時間対応させていただきます。

※外来は予約制となっております。

緊急往診に出ている場合もあります、
来院される前にお電話ください。

休診日:日曜・祝日

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	○	○	○	○	○	○(13時まで)
13:00-18:00	○	○	○	○	○	/

住所:〒252-0323

神奈川県相模原市南区相武台団地2丁目3番9号
コンチェラート相武台106

電話:046-240-1815

FAX:046-240-1816

診療科:内科・老年内科



【病院理念】



私たちは患者の皆さまの人権を尊重し、
十分な説明と同意に基づき、親切で心のこもった医療を提供します。

【基本方針】

1. 総合医療施設としての地域完結型医療の遂行
2. 地域支援病院の使命としての断らない救急医療の継続
3. 良質で安全な効率的医療の継続と低侵襲医療の拡大
4. 免疫異常（アレルギー・リウマチ）の高度専門施設としての診療、臨床研究、教育研修、情報発信
5. 病診連携・病病連携・薬薬連携の強化
6. 説明と同意（インフォームド・コンセント）の徹底
7. 情報開示の推進
8. 感染症や災害に強い診療体制の維持

当院のSNS

相模原病院ホームページ



YouTube
相模原病院



Instagram
相模原病院



看護部



産科



小児科



X (旧 Twitter)
相模原病院



小児科



ピンクリボン月間



10月はピンクリボン月間です。当院もピンクリボンさがみはらに参加しています。

この活動は乳がんの正しい知識を広め、検診受診を促進することを目的としており、街の建物がピンク色にライトアップされたり、乳がんに関するイベントやセミナーが各地で開催されます。



●ギャラリー



2025年施設内さくら並木(旧看護学校横)